

もも、ピオーネの収穫後の管理

収穫がほぼ終了したら、今後は来年作に向けて貯蔵養分の蓄積の時期になります。今後、枝が再伸長すると養分を浪費し、葉の傷みを助長し貯蔵養分の蓄積を悪くします。また病害虫や乾燥などは健全な葉を傷めることになりますので、防除やかん水も必要です。

◆もも

1 かん水

収穫後も降雨が少なければ、かん水を行って樹にダメージが残らないようにしましょう。
15日おきに5mm程度を目安とします。

2 縮間伐

衰弱したり、太枝が枯死した樹等、生産量が上がらなくなったものは早めに植え替え更新しましょう。

また、密植になっているものは、隣接樹との先端間隔が1mとなるように縮、間伐を先に実施します。縮間伐は収穫後に行い、残す樹の日当たりを良くしてやります。

3 枝管理

来年度の結果枝の日当たりを良くし、また冬のせん定が強くないよう今の時期に不要な徒長枝や内向枝を切除します。

- ・ 秋季のせん定は多少樹を弱らせるので、生育が弱い樹では行わず、強勢な樹に対してのみ行います。
- ・ 徒長枝などを切りすぎ、日当たりが良くなりすぎて主枝背面が日焼けを起こすと、それが原因で胴枯病になることもあります。特に北向きの主枝は背面が南向きのため、直射日光が当たり過ぎないようにしましょう。

4 病害虫対策

収穫後早期に落葉させないようダニ類やせん孔細菌病の防除を行います。

◆ピオーネ

1 かん水

土性にあわせて、10～15日間隔で15～20mm程度を目安とします。

2 縮伐、間伐

成木1樹の広がりには80～100㎡ですが、狭いと着色期に枝が遅伸びし、着色不良になりやすいため隣接樹を縮伐し、徐々に樹を拡大させます。

3 枝管理

9月上旬以降、副梢を遅伸びさせると、元葉の早期落葉、枝の充実不良になりますので、旺盛に伸長する部分を切除やねん枝します。

4 病虫害対策

病害ではべと病、さび病が早期落葉につながりますので、収穫後から10月にかけてボルドー液を散布しましょう。

虫害では、ブドウトラカミキリが新梢に産卵する時期にあたります。特に山際の若木では、この時期の防除が重要となります。なお収穫後の農薬使用は来年作の使用回数にカウントされます。